文部科学省 地(知)の拠点 平成25年度採択 文部科学省「地(知)の拠点整備事業」

To-Collabo通信

Tokai university Community linking laboratory

Vol.10
2016.3.22

Three Café オープン１周年記念シンポジウム

国際文化学部の学生グループ「地域カフェ研究会」が札幌市南区石山地区で運営する「Three Café（スリーカフェ）」が開店1周年を迎え、2月13日に「オープン1周年記念シンポジウム」を開催しました。

1年の歩みを振り返るとともに地域住民と意見を交換しようと、To-Collaboプログラム地域志向教育研究経費「地域―大学の連携を通じた知の『生活化』／生活の『知識化』プロジェクト」の一環として企画したものです。

当日は約20名の市民や学生らが参加し、パネルディスカッション「それぞれの立場からみたThree Café」と意見交換会を実施。「カフェが開店してから商店街に活気が出てきた」「学生と話すことで元気をもらえる」といった声が相次ぎました。終了後には、引退する創設メンバーの4年次生から運営を引き継ぐ新メンバーも紹介されました。

取組代表者の植田俊助教（国際文化学部地域創造学科）も講演

みなとまちづくり講演会

観光学部観光学科の菅井克行教授と遠藤晃弘講師のゼミに所属する3年次生17名が、2月28日に神奈川県の大磯町保健センターで開催された「みなとまちづくり講演会」で調査発表を行いました。

学生たちは、To-Collaboプログラム地域志向教育研究経費「交通インフラの変革に対応した地域観光資源の活用」の一環として、首都圏中央連絡自動車道（圏央道）の開通が大磯町にもたらす影響を、観光客らへのアンケートをもとに調査してきました。

学生は約70名の地元住民らを前に、「圏央道延伸により海水浴を楽しみに車で訪れる人が増えています。人を呼びこむためには駐車場の整備などが重要」と報告しました。その後、学生2名が、講演会を主催したみなとまちづくり協議会の会長ら3名とのパネルディスカッションに参加しました。

学生による発表の様子

―湘南校舎―
平塚市立みずほ小学校「エコエネ環境教室」

平塚市立みずほ小学校の4年生を対象にした「エコエネ環境教室」を、1月15日に湘南校舎で開催しました。2015年度To-Coーーaboプログラム大学推進プロジェクト「エコ・コンシャス計画エネルギー・ハーベスト事業」の活動の一環です。

当日は約60名が参加。最初にチャレンジセンター「ライトパワープロジェクト」ソーラーカーチームの学生が、昨年オーストラリアで行われたブリヂストン・ワールド・ソーラーチャレンジで総合3位に入ったマシンや電気自動車の特徴を紹介し、試走を実施。工学部の長谷川真也講師（動力機械工学科）と福田紘大准教授（航空宇宙学科）が、ソーラーカーや省エネ技術、音の振動を増幅して冷却や発電に活用する熱音響機関について講義しました。

試走するソーラーカーを眺める児童たち

―清水校舎―
「清水港・みなと色彩セミナー」で学生が発表

大勢の来場者を前に発表する学生たち

海洋学部環境社会学科の学生有志グループ「SDEC」のメンバー10名が、2月5日に静岡市役所で開催された「清水港・みなと色彩セミナー～あなたと共にScrum彩ろう私たちの港清水港～」で地域連携活動について発表しました。

学生たちは、To-Coーーaboプログラム地域志向教育研究経費「パブリック・アチーブメント教育を通じた地域連動による人づくり」の一環として調査してきた「三保の歴史マップをつくろう～明治から昭和にかけて～」など6つの活動を紹介。清水校舎のある折戸地区の「潮風薫る憩いの場 折戸潮彩公園」を整備する取り組みの中で、6月に約340名の方々と約5000㎡の広場に芝を植えたイベントについても報告。「地域の方々の公園への愛着や関心を高められた。今後も管理活動に力を注ぎたい」と語りました。

―伊勢原校舎―
「健康バス測定会」第2回実施

2月27日に伊勢原市総合運動公園総合体育館で「健康バス測定会」の第2回を実施しました。伊勢原校舎の大学院医学研究科ライフケアセンターと同市健康管理課の共催で、石井直明センター長らによるTo-Coーーaboプログラム地域志向教育研究経費「『市民に対する健康意識啓発』プロジェクト」の一環です。

今回は、「いきいき健康ウォーキング&測定会」として運動と併せて開催し、約100名が参加しました。会場前の広場では、本学所有の天ぷら油で走るバス「天ちゃん号」に「健康バス」などのステッカーをつけてイベントを宣伝。体育学部や医学部、チャレンジセンター「病院ボランティアプロジェクト」の学生らがサポートし、「血圧」「血管年齢」「下肢筋力」「骨量」を測定しました。参加者は、「定期的に実施してほしい」と話していました。

体育学部や医学部の学生らが測定をサポート

―サテライトオフィス―
写真展「写真の持つ大きな力 学生が見た被災地の5年間」

学生の発表に参加者は真剣に耳を傾けていました

東海大学サテライトオフィスで2月22日から27日まで、チャレンジセンター「3・11生活復興支援プロジェクト」による写真展「写真の持つ大きな力～学生が見た5年間～」を開催しました。東日本大震災発生から5年を前に、被災地を取り巻く現状や復興支援活動について考える機会にしようと、メンバーが撮影したプロジェクトの活動を紹介する写真や現地の風景を紹介するものです。

最終日の27日には「復興支援における学生の成長～4つの力から～」と題したワークショップも実施。活動を通してメンバーが得てきた成果について、東海大学が育成する「4つの力（自ら考える力、集い力、挑み力、成し遂げ力）」に関連して紹介するとともに、参加者とともに、「今、自分が被災地に対してできること」を考えました。

FD・SD研修会
「ファシリテーター育成研修会」を実施

「マグネットテーブル」など
さまざまな手法を体験

ファシリテーター役には参加者それぞれから
フィードバックとしてアドバイスが送られました

研修では、大学と地域の連携促進に向けて組織を超えて協力し、地域課題の解決策を創造するために必要な「共通の考え方」を教員と職員の間に築くことを主眼に置き、「問いづくり」と「ファシリテーションスキル」について学びました。

2月18、19日と3月3、4日の2回に分けて湘南校舎で、教職員を対象にした「ファシリテーター育成研修会」を実施しました。「To-Collaboプログラム」の効率的な運営の実現に向けて、会議やプロジェクトなどの集団活動がスムーズに進行しつつ成果が上がるように支援するファシリテーション技術の向上を図ることが目的です。2回の日程はいずれも同じ内容で、全国の校舎から集った教職員延べ34名が参加しました。

株式会社フューチャーセッションズの講師による研修では、初日に企業や行政などさまざまな場面で実践されている「フューチャッション」の概要や、「ブレインストーミング」「ストーリーテリング」といった対話の方法論を体験。

2日目には、参加者がファシリテーターとして「問い」を設定し、他の参加者による話し合いを実践し、「5年後の東海大学のブランド力向上に向けて」や「地域に求められる大学とは？」といったテーマについて語りあい、意見集約の手法などについて知見を深めました。

Day 1

プログラム
フューチャーセッション概論
フューチャーセッション体験
ファシリテーション実践準備［問いづくり＋対話設計］

Day 2

プログラム
ファシリテーション実践
ファシリテーション実践の振り返り
終了後のネクストステップ設計

参加者の声

たくさんのことを学べた 2 日間でした。具体的な手法だけでなく、雰囲気づくりまで細かな配慮が大切だと気づきました。

今回、さまざまな「問い」を通じて、大学内外に散在する多くの問題点、そしてそれに向き合おうと日々頑張っている教職員がいることを知りました。今回の研修で培ったスキルを用いて、職場の意見を本質的な方向に集約するという一連の流れを、研修外で実践してみたいと思っています。

今回、さまざまな手法を学ぶとともに、ファシリテーターの役割の大変さなどを体験させていただきました。今後の授業ですぐに応用してみたいと思います。

普段はなかなか聞けない話や、皆さんの熱い思いを感じられて良かったです。今後、うまくこの技術を生かして対話・セッションに臨んでいきたいです。

To-Collaboプログラムの総括と展望

―総合大学の強みを発揮し、新規事業も展開―

木村 英樹　To-Collabo推進室長

池村 明生　To-Collabo推進室次長

東海大学が取り組んでいる「To-Collaboプログラム」の地域志向教育研究経費や大学推進プロジェクトなどの取り組みをはじめ、「パブリック・アチーブメント型教育」導入に向けた活動などについて、今年度の総括と来年度に向けた展望をTo-Collabo推進室の木村英樹室長と池村明生次長に聞きました。

―今年度の活動について、総括をお聞かせください。

木村　過去2年間の活動を通じて把握してきた地域のニーズと大学のシーズを踏まえ、今年度から「大学推進プロジェクト」を新設しました。全国連動型という本学の特徴を生かした活動が展開でき、それぞれのプロジェクトが成果を残せました。

池村　大学推進プロジェクトの「安心安全」「大学開放」「地域観光」「芸術・文化」「エネルギー・ハーベスト」の5つの取り組みは、総合大学である強みを発揮できるテーマ性を打ち出せたと思います。また、学内を横断する形での取り組みは、携わる教員にとっても刺激を与える効果がありました。

木村　地域志向教育研究経費でも、より地域との連携を深め、学生の教育面でも効果ある取り組みを展開できました。連携自治体の担当者の方を招いた評価委員会でも、賛称の声をいただいています。

―学生の教育面での取り組みについてはいかがですか？

木村　次期カリキュラム改訂に向けて昨年8月に教職員を対象とした「パブリック・アチーブメント（PA）型教育研修会」を開催するなど学内への浸透を図りました。また、新科目設置に向けたシラバスの検討も進めています。

池村　PAに関連する取り組みとして、学生や教職員が地域の皆さんとさまざまな課題について意見を交わす「フリー・スペース」も初めて開催しました。すでに湘南校舎周辺の自治会主催で同様の催しが開かれるなど、世代を超えて意見を交わす機会が生まれています。

―来年度に向けての展望をお聞かせください。

木村　地域の課題と向き合うにはTo-Collabo推進室だけでなく、学部学科、事務組織が一体となって取り組んでいくことが重要です。各校舎の教職員が参加して「ファシリテーター研修」＝3ページ参照＝を開くなど、新たな活動も始まりました。

池村　地域志向教育研究経費の成果も踏まえ、大学推進プロジェクトを大きく拡充し、4計画8事業すべてでプロジェクトを展開します。特に「大学開放」の取り組みでは、これまでの「To-Collaboプログラム」の成果を発信する「地域連携デー」を開き、市民の皆さんに楽しみながら理解を深めていただきたいと計画しています。また、「地（知）の拠点整備事業」の採択が終了する2017年度以降を見据えた活動も大切になってきます。地域住民と自治体のつなぎ役として課題をすくい取り、インキュベーションする役割を果たしていきたいと考えています。

To-Collabo

文部科学省　平成25年度「地（知）の拠点整備事業」採択
「To-Collabo プログラムによる全国連動型地域連携の提案」

全国にキャンパスを有する大学ならではの「全国連動型地域連携活動」を柱に、地域特有の問題や共通課題を各校舎の学部、学生、研究者が共有し協力して解決策を見いだす取り組みです。To-Collabo（トコラボ）とは Tokai University Community Linking Laboratory の略称で、日本全国に広がる総合教育機関の高等教育拠点である東海大学（Tokai University）の特色を生かした教育・研究活動と地域をつなぐ（Community Linking Laboratory）ことを示しています。

トコラボホームページ　トコラボ Facebook

活動情報配信中!!

『To-Collabo通信』Vol.10（2016年3月号）
発行　東海大学 To-Collabo推進室

〒259-1292 神奈川県平塚市北金目4丁目1番1号
TEL　0463-50-2406（直通）
FAX　0463-50-2034
E-mail　coc@tsc.u-tokai.ac.jp
URL　https://coc.u-tokai.ac.jp/
Facebook　https://www.facebook.com/tokai.coc

東海大学